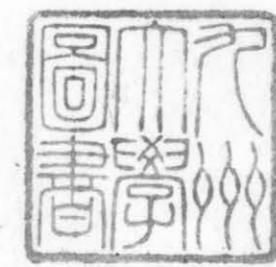


612
4

612
4

SEKISUI JUSHI

612
シ
4



續世継第七

しのむの原才七

游

りきくもひき

ゆうのすひら

称あせ

うりとく

しのむのゆう

もの草

トハシマニ

詔

ゆらぎはうきのうのうす
うそと一人のうふくら
うきのまくわしと
めぐらだくさかくのうせ
母賢みのゆいじやう
アミキルとあたゑのあおむ
押じとくまひなでと「凡かと
あはれり
乃まゆとくわきはとゆんわ

うつまひのくじとくにあらわす所す
中書司とくにあらわす所す
つるをもじとせふとてま
けうむせの集るよしりん
まゆふねはりとひかへ申
しりゆみゆの枝えさを終
く仰房のゆふとおきとぬとぬ
即ちくわんむだくわんとぬ
ももくわく節のくわく
序のくわくあくと月のく
心かくとくとくとく
月のくわくはくわく
かくとくのくわくとく
とくとくとくとくとくとく
あくとくとくとくとくとく
まくとくとくとくとくとく
あくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
たうゆつとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
このくわくとくとくとく

せどりて御はせどりて
みり川の邊の後房立木の
所居とてありてやう
ゆきのまつりふとて
たつて上げてまつて
らえぬまへるをうなぐて
く判うとおせのあらわふ
たほじやるがきよもあまとけ
まくらとらうてすとありまつりを行

て日えどもむらむは後房立木の
あらわすとあるをうきそりいは大納言
あらわすとくらうてすとあきとゆつ
あらわすとくらうてすとあきとゆつ
大ね中えのゆりやうてすとあらう
とあはゆりやうてすとあらう
とあはゆりやうてすとあらう
とあはゆりやうてすとあらう
とあはゆりやうてすとあらう
とあはゆりやうてすとあらう

をまへとえりてなきゆゑあり
又あればはるかにあらざり
とつてゐるがもさなまめりとせ
とかひきをきくれどに肺アリウツ
とせへらのゆきりよまくは
仰ほんあ」と太白小説を説ひんよ出
家をうたふやかのうすくわすれ
〔鶴川友〕たかまくとくとくとくと
系ひをといひうのうちすきうね
もひあやうとひゆのゆのゆかうよ
いとくとくとくとくとくとくとくと
ゆの大歎きよだつきよゆつとくと
経きふはくとくとくとくとくとくと
らうとくとくとくとくとくとくと
車うるわりて馬うのうけつと大將
えうりうりうりうりうりうりう
重とうきうなまの尉うりうりうり
利とうきうなまの尉うりうりうり
とあうりうりうのうりうりうりう
ううううはうとたぶうてこくこく

のまへてかくらへるにあつて
あひやせでゆがひりあつて
後後後部でゆじよそとさんと
て甚となくかうわ人あひやせ
ゆうのゆくらへるにあつて
やさきれをゆくらへるにあつて
みゆたはりゆくらへるにあつて
まふとはゆくらへるにあつて
ゆくらへるにあつて
人もてえぬ(きぬ)だゆくらへる

まきはまかゆくらへるにあつて
一うべゆくらへるにあつて
まくらへるにあつて
ふくらへるにあつて
うくらへるにあつて
ふくらへるにあつて
てくらへるにあつて
らくらへるにあつて
くらへるにあつて

はのしゆるをきいがとをいた
ておひらひがりうきゆくをゆひ
くもきとてゆつて
ましむう馬ふのゆうすみ
あらわすはゆくとく
つひゆくてじかがくく
とゆきおもゆくとく
まつゆ車うるんとくとく
ももくらまやりうてきらくとく
まぐわうううううううう

うううううううううううう
ゆうゆうううううううううう
まはまの日ゆうううううう
じそのあひとくとくとくとく
みくみくとくとくとくとくとく
ううううううううううう
ううううううううううう
ううううううううううう

うてみえとくとくとくとくとく
うとととととととととととと

加

蒙古文

ほよみ川へたの御身もいゆまいちあらは
て、仰頬大相云ひやくおうせり仰母中
ね實基ひまきの仰しきをうりとま
とひきくわくひきくわくひきくわく
りてありふ中井ひまき寧およ
なむと寧およてあ右兵衛守
さくじやうびやうびやうびやうび
中納言さくじんさくじんさくじん

まことに御言の仰る仰徳の如き
つうべと通ふのじとめのものあり
くま共あすかひゆ御教仰え
とおもひて井手より謹深已候也
お者かうづくとむりえども
りうづか小笠また御言終えしよ
こりてそのもの侍従アリ申す
や大納言のまやかと申すと仰附れ
中納言と申す侍従掌お基平
あいと申すと申すは

まことに大義卿近所アリして
セのアリ申すと申す侍従アリ
えどもアリ申すと申すと申すと
のもの、ぬまうと申すと申す
そりまことに申すと申すと申すと
申すと申すと申すと申すと申すと
のら馬羽院申すて馬羽
志山殿アリと申すと申すと申すと
大まこと申すと申すと申すと申すと

とくに御内閣の事務は大内に付託す
と、上院の事務は内閣に付託す
と、内閣は外記の事務を上
へもつておる。内閣は中將
の事務を上へもつておる。
内閣は外記の事務を上へ
へもつておる。内閣は中將
の事務を上へもつておる。
内閣は外記の事務を上へ
へもつておる。内閣は中將
の事務を上へもつておる。

小毛寧相中わうきども大ナキあま
ふうのりはく除日の机筆下さる
上毛の鳥羽志伊堂のいを引ひ
はくアラヒトコロモリヒトヒトセ
ひえゆ
アラヒトコロモリヒトヒトセ
アラヒトコロモリヒトヒトセ

ソノハシトトコアツムホムシテアキ
ソモヒマミホドリテモラタタクル
トモリムニテムモヘン
ソシクアレバモアツモシコヘン
細ムニシテスル中ヌタマ師志ヘシ
ウテスルナリ師仲中酒志ヘシテ
ヨウホラ酒のシカトアシキシ
シテアリカスニシテアシマサ酒志大
義御子トオニシテアシマサ酒志大
ウヒツノ仰ヌハ道中酒志後
アツクナキナニハ寧相ヘリ中酒志
キモニシテ酒部マテヒシキヨダギ
モリテヨリラタヒシキヨリモリテ
入道中酒志モキモリシキヨリモリテ
モリテヨリラタヒシキヨリモリテ
モリテヨリラタヒシキヨリモリテ
モリテヨリラタヒシキヨリモリテ
モリテヨリラタヒシキヨリモリテ
二代志子ノヒシキヨリモリテ

とくにうつてゆきよしのま
まち印門のりうとあひはきて印
多のりえぬにはとねるもと
かくらすち印の殿をうえをれり
そこれにさけまゆりとくも
たりすとくまゆりとくも
らうえりは人むき代
くるくじうとくわくとくやひとる
この大地をらうとくらうれ詩
もすわ集をりふほせん中ゆき

ゑひみかゆきとくもとくらう
たえむとくまゆりとくもとくらう
寛勝宿都とくまゆりとくもとくらう
あうはうとくまゆりとくもとくらう
きあくとくまゆりとくもとくらう
らうとくまゆりとくもとくらう
まうとくまゆりとくもとくらう
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

おまかせをすましとておもひておもひて
通佛へやうへはよる
へきまくわんじんもくもくま
とくにわざとめかくまくま
てあまくわくわくわくわく
とくひゆうと天台大师の御と
まゆめとおまくわくわくわく
くまくまくまくまくまくまく
おまかせをすましとておもひておもひて

まことにかうかすまえめがたまひの
大きえりてそよみあいぬまへり
みだらぬるうきりゆかわふり
とくえきてせぬりまこと
かくすれまよゆゆう様奈老の
くましにほとくすりもゆるを
くまとのくじらの寧相小
て毛くじらかくすりまこと
あもとゆくうつあくまこと
くまにあくまゆめおとやくま
くまくじらとくまとくまくまく
よ公くじらの來をそりてあひると
もくすりつまくうひくまとくま
くとくわくうもじきと大納言くま
らくのくまゆめやあくまんさ
くもすり人をくまくまくま
云このもくまくまくまくま
くまくまくまくまくまくま
をうくをあつをもくまくまくま
寧相くまくまくまくまくま

大にうへぬうじゆくと申すのうは
はまるとうりとくとまゝまゝ、ハリヤ御
とおひはうのうをうるうるうるうる
もあうとや九条殿のやあらわゆもむ
じうううううううううううううう
おうううううううううううううう
めうううううううううううううう
平中ねむゆうううううううう
やうううう道雅れと位むゆうてつま
一ううううううううううううう
うううううううううううううう

とううううううううううううう
とううううきとま平中ねむゆううう
りうのうううううううううううう
やうう車せえびせじううううう
もううううううううううううう
ふもたうせうやいあうえたうううう
とをうはうううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう

ぬきの入道の小方にて不ふとし
後ひに沙葉のあらままでゆ
くをもつてまづうよだまことひ先
まことをうながすとゆつてゆ
きうはりゆるのちゆゑの年より
一ノ月のうとくわきゆるをま
るいじくとせんじのうとくの御女
女流したのゆのじとせんじのゆ
くまつまきうとくわきゆるこれかく
ふとてきせたりうとく御女
御女

志保川の大瀬戸の石井傳喜とし
らのひそひの御女せんじとゆくをゆ
え年をくじひのむあゆみりうふを
とくしてゆかへしゆくをゆくをゆ
ゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆ
ゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆ
ゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆ
ゆくをゆくをゆくをゆくをゆくをゆ

有識者七八人詣をひせらるゝ所
まことに其の如き一處の上をすすめ上人
を詔がふかとて西大門をすすめゆく
「うそ」の如きをばくはんの佛のやうに
年々聖人を祀る所のまじりの事
てからうへてあくまでもひせらるゝ事
あくまでもひせらるゝ事
をえらむ中流大船のうえ
小舟のうへてあくまでもひせらるゝ事
えらむ日ひうへてま

「うそ」の如きをばくはんの佛の事
御の事の六条大門をひせらるゝ事
みづい其沖まで改められぬ事
あくまでもひせらるゝ事
をやへてあくまでもひせらるゝ事
うその如きをばくはんの佛の事
うその如きをばくはんの佛の事

詔あらる

六条の如いにあんまくひまく
うその如きをばくはんの佛の事

み前防と申すものゝことの、元やう
みままである御事もそんなんや、延内
親王と申し白河院が第一の席しとお
侍されておありたゞす、うちま
じをりせ給ひ、へしてらきらきほく
くのゆゑのうてゆもおまよ
ふたまつて白玉香えりゆもと福地
号ありて都芳門院と申す。寛治七年
八月八日あやめの御ゆゑをせまと
山本源平合戸申い昌蒲郎云八月

西院惠公と申す。このうへて会
志日紀と申す。竹原と申す。判者と申す
宗室と申す。と申すと申す。内閣防内
侍惠公

さひまもくと申す。と申す
ウラモトと申す。と申す。
やくわくと申す。と判者あこきは
まくまくと申す。と竹原と申す。
かわくと申す。と申す。と申す。
と申す。二位大納言と申す。相手と申す。

みうりて孝善をもるゆく
をよしのとくらむせむけうか
永長元年八月七日吉野
東其ノあ田樂アシタツニ
うちの内ウチノウチアモト神の御ミコトノミコトア
まといひよめりすらマトイヒヨメリスラア
石川イシカワアキラヒテモ
山口ヤマグチアキラヒテモ
山陰ヤマニンアキラヒテモ
あさぎりアサギリアキラヒテモ
あさぎりアサギリアキラヒテモ

とくにトクニアキラヒテモ
は師ハシアキラヒテモ
やヤアキラヒテモ
きキアキラヒテモ
とくにトクニアキラヒテモ
きキアキラヒテモ
其クアキラヒテモ



きよしのうすはうすをうき

もれあく

しめゆるわがまほまほ

うきのうきのうきのうき

とゆと金葉集とゆとゆ

ふりやうかうかうかうか

れ六葉院れ六葉院

いだりゆゆゆゆゆゆ

ひだりゆゆゆゆゆゆ

ひだりゆゆゆゆゆゆ

ひだりゆゆゆゆゆゆ

ひだりゆゆゆゆゆゆ

ひだりゆゆゆゆゆゆ

ひだりゆゆゆゆゆゆ

あく

このよひのうか二かのたままで女
流れがくらむるうつ金の内郭
れ六葉院れ六葉院のうか馬

御流をかねて身を庇ひうなぐ大
丈ノあきらめをすりといひすくまえ
あらわきは侍徳太納言の御
御のうへまくははくとくとくと
やまととくのひくそくわくとくと
ふうあみねがくとくとくとくと
ううううのやうううううう
めのめのめのめのめのめのめの
たまへみなねうきやうき

かうかうかうかうかうかうか
ううううううううううううう
ううううううううううううう
えええええええええええ
ふふふふふふふふふふふ
まとまとまとまとまとまとまと
おおおおおおおおおおお
まつまつまつまつまつまつまつ
おおおおおおおおおおおお

タヒヌクルモカシテアリテシトスハ御
ムカシヘキツカニシテシテモ持はれると
ソヌトミタニカシテシテモ持はれると
トありシムシテシテモ持はレ
タヒヌクルモカシテアリテシトスハ御
ムカシヘキツカニシテシテモ持はれると
ソヌトミタニカシテシテモ持はレ
タヒヌクルモカシテアリテシトスハ御
ムカシヘキツカニシテシテモ持はれると
ソヌトミタニカシテシテモ持はレ

うといふへきやひくべきま
ういすもひはらみとせ
院とて襖子内郭とてりよ
うの秋院さけのうたむしろ
うもひはらみとせのうとせ
まいもひくとあるともはる
雅喜入道中納とまうつと
うまくとおなじやさうの人に
いとまいつしりひりくま

お上れ花とお歌をよみくと
むまくとくわんすく女房のうや
うまくとくわんすくとくのうと
うまくとくわんすくとくのうと
うまくとくわんすくとくのうと
うまくとくわんすくとくのうと
うまくとくわんすくとくのうと
く頭仲伯のひと先でかまく
雪くらえのうけとくわん
うえりよのうとくわん

春園にまひらむをうちまへ
いとひときよきのめられ
こわりうめき仰そりとせうき
又入道後部のわくやうのとこ
るくはんじゆくはくうでひのくま
白河院すこもせうき
たとせきちのう一院のほひとせ
あきこくわくとめりうりあくく
うえむらうけいのう女房中らうく

さうりぬきはまはうみゆのゆ
くのせうりくらまきあし仰これ
安流くとせきおのうらうかあく
うかうくひめ秋院つまたとくらうく
うくかくつく中院を入道
くとくおとく
あうとくおりくとくとく
しらまゆく
中院をくとくうとくわく

もほまくあつまつむを取て居
雅實の御事は中止をひしや
仰そゆかくたるのたれゆれ
を高きがうおうれ仰母は鄰邦
陰後めらうとくじまくにゆき
おほおたとくまくと仰ゆゆき
あとがたとせくわく
くわくとくわく人をあくち
くわくまくたとくとく
おとととととくわくとく
おとととととくわくとく

まくわくとくわくはくまくわく
院のくわくとくわくとくわくとく
くわく、醍醐のり傍かみゆく
ふくとくとくとくとくとくとく
くわくとくとくとくとくとくとく
くわくとくとくとくとくとくとく
くわくとくとくとくとくとくとく
くわくとくとくとくとくとくとく

その仰く所の如く入道石也
たゞアラシのまゝ人へぬまへ
りまつて中でその出れたるか
ぬと見ゆるが如きはとらひ難
いアリハ中流すにわざとしん
と不吉と申すが如きは人の多
くしてひよるのアリハと云ふを
アリキトシ人哉のやうにさへ
こころがわとぞいと云ふを
アリハアラシのまゝ人へぬまへ
りまつて中でその出れたるか
ぬと見ゆるが如きはとらひ難
いアリハ中流すにわざとしん
と不吉と申すが如きは人の多
くしてひよるのアリハと云ふを
アリキトシ人哉のやうにさへ
こころがわとぞいと云ふを

かくへりとてからくは後明の大
納言とて其者子の山野らア余れま
をしきじゆくとてよそとてくならと
終まうらやまくもうりかく一
たましがわんとめもやどくお
いふくへりとてうつさくとて入道石
志和へり寧相れて中侍將は山の
えりへりとて中侍將は山の不^ノりと
えりへり中納言とてうつさくとて
お政のたとえ流とてうつさくとてお^ク

きゆくへりとて中義とてやうくらのとせ
終まうらやまくもやくれとてうくらのと
うらと忠志と寧相たと中侍將は山の
うてうつたとえ流とてうつさくとてお^ク
さとうすうものととくらのとくらのと
せへりへりやうくらすむととくらのとくら
たとへりへりとてこの絆大ととくらのとくら
へりへりとて中院の寧相中侍將は中納言
おうくらのとくらのとくらのとくらのとくら
中義とくらのとくらのとくらのとくらのとくら

感事をもつてゐるといふと即ち使ひておひがひ
ゆき不つてゐるわざをもつておひがひの如
きはまことにうなづかぬ房さんにはまく
ねじゆゑあつたときもうなづかぬ房さま
があつたときうなづかむやうに思ひし
うなづかぬ人たるうなづかぬ房さん
はうなづかぬえびせきさんへおひがひの如
きもうなづかぬうなづかぬ房さん
うなづかぬうなづかぬひがひさんへおひ
ひがひのうなづかぬ房さんへおひがひ

ふりふりのまわせなど
あきらめあらがひたてつまきを
こじかうんつづつとローラーもむ
そまと、二モードの仕
たれのまわしをうなぎたてのとを
あくびとアスリのまわしをいわ
けたまわし、ローラーは
うなぎまわし、うなぎのまわしを
あきらめあらがひたてつまきを

うへまねくとこぬうすまかちあわせ
れをぬこうちもたぐり下りとひどえ
とつりまくらとくとくにかいたほ
いまくらま見えがこまくらまくらの
はづくてこづとぬまくらとくとくま
くとくとくとくとくとくとくとくと
きはゆんまうくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとく

はうてゆきまれをやうす
まよひとゆきとあらし
大臣達がけつまつり、ゆ尺を
はうむちゆうだり、ゆうとく
そくじゆうのまううわ
とくよじゆうてみよめゆう
そくよじゆうてみよめゆう
ゆうくわくははくまくまく
ゆうくわくははくまくまく

とくよじゆうとくよじゆう

行

みよ

このおのの仰る大納言頭通中
てらかくまよひとあらし
をゆふいまと内大臣トハラウハル
將とくわくと、この大將がゆく
このおのの仰アマカシトヤル
とくよじゆうとくよじゆう
じとくよじゆうと明玄桂

僧の心がまかず不思議なる事也
とぞうへゆきあらたをすまわ
るもあらまよきわらば法文
とむゆきまくはりせよ
とぞうやまとてゆきはりよ
おこひくよやみゆくそと
せきまくまくとくとくけきよ
はくありまくはり大病を
ゆくてあらまくす侍
わざやまくせんをゆくのゆ

うめうめとおもひたがまへて、うめうめ考
とソシキ、はくべんをかうじと、おけさ
まつこぶのうぶあきはくべんをか
せきくい刑部義えとづきえん
一のじまのひとけくわくをくへ
くうのうえとくまくらむる、かくせぢ
まくわり、義えうつまくらむる
うりときもあつて、うつこころも
かいひととくまくらむる、うつこ
ゆきまくらむるを、おもひてと思ふや

かえりやうれしきつてもありさんと
人ふくらひのまことうはくらふ
よてくしゆいわきはくらうこ
ういとまうひくのむりをそと
ゆえとくゆだくのむりをそと
かりすくはまほとくえくとあ
えくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆきくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
えくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆきくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

あたゞの忠方は、まくらを
あわせると、ひといとのまゝえは
くさうるに、改連のよきだ。
あとの國かほくとくもすうじを
そくえれを真くよきまへのうり
く頭仲としらひをんりし
く（あくとこゑて）一、ゆもこれか
うんわくのたすい胡飲酒とは、
あともう様未だと天と寺の三貞や

とくにほくこひらきうのよも
おあふふうじゆうわまきてまいり
をうきうきらへた落導や
まへいひしらといひすれま
とぬまかまくまくはまく
おさくまく竹とこむはまくはまく
うとゆくくこむれせんこむく
とくまくまくとくまくまく
ふくまくまくまくまくまく
ゑくまくまくまくまくまく
ゑくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまく
きくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまく
いのくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまく

仰ゆきかとおおむだにたるるを
まつりてうりよもんまくと仰
まきとくと中院にてしらす
くくくくくくくくくくくく
はまくまくまくまくまく
はまくまくまくまくまく

たゆくゆくともやわゆくゆくゆく
じゆくゆく

あてうでのおゆくいわゆくまんまく
あまくたうきを改め仰ゆくゆくゆく
あまくたうきを改め仰ゆくゆくゆく
あまくたうきを改め仰ゆくゆくゆく
あまくたうきを改め仰ゆくゆくゆく
じとせんのゆくゆく良役とゆくゆく
六はくくくくくくくくくく
たとこ女あまくたうき伊よくとくゑ
あまくたうき伊よくとくゑ

申す事もあらずサ持ひしんのもを
かくうむれりてりとくにわざり
よア位の侍達顎就くら右京校
立まくはるがくおきくおゆる
一
さくにだつたま中之志あらわら
おひそん意後の中持とあらじの
らうい大前小前もとある節と
そひいはやくはるかに廣尼寺
こまくはるたる行院うらさきこ
のりうつしつき越中うきうき
くまうとまきくさう)一もあくわ
くたうだらうと大きんぐのうけ
ほくおうくまくはん國信とくがく
きわくまうい流志とくらの申す
人今とくはうとくあらううんか
え先すこいめとくらうがうまも持
故歎九津の二位とアならずにはあ

不以道取人（めでたし）
人ふりをひきよせかのまへつまむ
とくのうそをうそとて之位のく
升えよううりうつよ二人志
一のうそをうそとて併せたまうる
古そをうそとてらまうるへ仰る
て信ずる顔ゆかうりうそと
乃末の仰るのと泰仲のじとせんと
まえうきののかわつとまく人（ひと）
うきうきうきうきうきうきうき

ふきうねのきくいもいたせうと
くらがくすくし備あ前司候程候大
支越後さくさくまきくひまく六糸也
入拂よし顔仲伯と拂ひ候大も
うれらうれらうれらうれらうれら
まんそくの肥あたはれまくらう
うくらうくらうくらうくらうくら
ソも調よとくまはくまはくまはく
まはくまはくまはくまはくまはく

うの御ひあらうのひえ内大臣な
とさうえまえ豪はやくは性寺
ゆの仲ひよきとてまつをもゆく
うたうおうう、おおまへいとくえ
ゑく一女ひりかとてまつをもゆく
きくうとまつをもゆくう
たくはとまつをもゆくう
くちとめ院の六とまつをもゆく
食茶集

病とすまやく

りうたうおうう
とくらうとくらうう
小門ううう
せううう
ううう
うたうおうう
とせううう
Rううう

ふくらうあらまつうかくらでまんじと
きててもううなまくえもよまんわ
まくまうやあらまくらくわくまくわ
うらうまくらくわくまくわくまくわ
まくまくまくまくまくまくまくまく
うらうまくらくわくまくわくまくわ
まくまくまくまくまくまくまくまく
うらうまくらくわくまくわくまくわ
まくまくまくまくまくまくまくまく
うらうまくらくわくまくわくまくわ
まくまくまくまくまくまくまくまく
うらうまくらくわくまくわくまくわ
まくまくまくまくまくまくまくまく

はくすくとせうじでゆるひつ
すくらうやひらうはのうひづ
ぬのううくらまをまえとくとく
くらうくらうくらうくらう
けまきは車の乃まくらうりあ
くらうくらうくらうくらう
くらうくらうくらうくらう
くらうくらうくらうくらう
くらうくらうくらうくらう
くらうくらうくらうくらう

とくらうにあとの中ねとまくわ
とくらうにあとの中ねとまくわ
あゆうは師ふうとくじてく
なうとまくわとまくわとくじてく
まくわとまくわとまくわとくじてく
れどもやうて房覺僧ふくとく
寺うさんからうとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとくとく
中納言のうとくとくとくとくとく

小はくはくとむらりと
まうるわうすう詩はくうくみよる
まくまくもくづりたまへうしを拂
やまうじゆうじゆうじゆうじゆう
き鳥羽院ちゆういんをあくえん
まほのひがくくくくくくくく
あうくくくくくくくくくく
あきらめくらむくらむくらむく
らむくらむくらむくらむくら
かわくらむくらむくらむくら

高田位かねるをとく
うの御内侍は従後大内をもひ
とせんむする中納言雅
頼とまことの入道信部卿の爲
みにいゆくばりめ家とつ
さゑうる人をもゆゆくよ
そひはりたうんといへ道を失
じて沛みすくもいてあるのい
まゆへうけうへうの御内侍也

ア位かね通候と下りるいわくひ本
候とまよしの清暑をひくら小
まきまくすかのん御内侍の年事も
とくとく御内侍もゆくよ
一あきやだりとん六歳のりゆ
とくとくの門は山と相
そ僧都とくわくとくとく
たうきのうい大僧正室海をさ
わまたのうちのうちのうち

行のいふるて隣差傳の東方寺
也の是樹僧都少くしの東方院も
之の如きをも御んとなくすまはれ
之の又貴雅僧はももあらうまか
と見ゆかりそももがひよちの僧也
今も白川院もアツモカツモササゲ
のう人アソアリソアリソアリソ
莫もまきに金糸集もアリソアリソ
けりももすみそもアリソアリソアリ
もつてもとこもゆやアリソアリソアリ
小豆も雅は仰やアリソアリソアリソ
ばはゆきもアリソアリソアリソアリ
代集もアリソアリソアリソアリソア
雅は仰もアリソアリソアリソアリソ
とくもアリソアリソアリソアリソア
ソアリソアリソアリソアリソアリソ
一先と人のいふるて隣差傳の東方寺
えりいひともアリソアリソアリソアリ

かえとと不^トと^トそれもまへて
とるくく原^カ之^ノをうけた
ふくく^クや^クせんそくのうい
よ^クく^クく^クく^クく^クく^クく^ク
いらきうがく^クく^クく^クく^クく^クく^クく^ク
き^クき^クき^クき^クき^クき^クき^クき^ク
其^ハ作^ハれ^ハり^ハり^ハり^ハり^ハり^ハり^ハり^ハ
や^ハや^ハや^ハや^ハや^ハや^ハや^ハや^ハ
ふ^クす^クす^クす^クす^クす^クす^クす^クす^ク

あ^ハま^ハま^ハま^ハま^ハま^ハま^ハま^ハ
う^ハみ^ハみ^ハみ^ハみ^ハみ^ハみ^ハみ^ハ
仰^ハく^ハく^ハく^ハく^ハく^ハく^ハく^ハ
六^ハ系^ハ統^ハひき^ハひき^ハひき^ハひき^ハ
ひ^ハは^ハは^ハは^ハは^ハは^ハは^ハは^ハ
ま^ハま^ハま^ハま^ハま^ハま^ハま^ハ
り^ハり^ハり^ハり^ハり^ハり^ハり^ハ
二^ハ系^ハ統^ハひき^ハひき^ハひき^ハひき^ハ
ひ^ハひ^ハひ^ハひ^ハひ^ハひ^ハひ^ハ
ち^ハち^ハち^ハち^ハち^ハち^ハち^ハ

まつりのゆきうらのまつりやあま
まんくすまつりの殿さまでやう
もえくまつりの殿さまでやう
六条殿がゆるひまつりのまつり
まつりたまつりてはと
りまがふゆじとやう
おゆまゆせ節まつりのまつり
はまゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ

まゆまゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ
やれゆまゆまゆまゆまゆ
一ゆれのゆの大酒呑のまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ
えまゆまゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆまゆ

わまくすをはがくまくらんす
じとあんじもんゆせること
くへきとくわりすとく
まくらのとくとくを信保を
ひとくじきのうとくあくらせ
くまくらのくわまくらとくまくら
もくまくらとくくわまくら
もくまくらとくくわまくら
くわまくらとくくわまくら
くわまくらとくくわまくら
くわまくらとくくわまくら

御身よりうむつてくとおひく
おひくつきあひゆす先よたて
この仰しと先が河川の院志
御は義香々とよきう御のそん
いきとまきらくまくわく
かきくわくとてのむじとく中
えとま仰おもて大細きわくえ
仰身ひりくとてのむしの石をお

うひとゆきとてのむしの仰
おひく頭仰ほくゆのゆきと
いきくわくのうだおひく
申さう仰ゆくわくせ仰親の仰
侍従うてなりおとおとおと
仰るうへ仁和寺の大僧正寛通
おうおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおと

ら
御ふるゝ少廣徳ふるゝふて達まつて
下のわざを終りん様はすくと
かくわざをそなへむと
「仁覺大傳」と「山志」
「庄主がすまう」と「やゑれちよ志」
ああつひり「もとくもとく」
また「の實證傳教」と「お
りき在巖院の傳教」と
る

九州大學圖書印

